

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇北小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「主語・述語の関係」「敬語」「修飾語」 算数「数と計算」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。反復や復習の時間の確保が十分ではない。	⇒ 単元ごとに書き込み式のドリルやドリルパーク等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む。【毎単元内で実施】 授業で何を学習したのか、何が身に付いたのかを振り返る機会を設定する。【毎時間】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」 算数「数と計算」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 児童主体の学習活動の機会を充実させていく必要がある。また、自分の考えを表現する機会が十分ではない。	⇒ 学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行うために、ルーブリック(評価規準)を授業の始めに示し、終わりに振り返る。【毎時間】 学習者端末を効果的に活用し、授業で自分の考え(計算の仕方の説明や選択した理由など)を表現する機会を設定する。【週に3回以上】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	結果提供(2月)
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、同音異義語の漢字の定着に課題がみられる。また、「解答時間が足りない」という児童回答の割合が高く、無回答率が後半になると高くなる傾向がある。複数の資料から必要な情報を選ぶことや時間配分の調整などの経験が不足していると考えられる。昨年度の同調査でも同様の傾向のため、学校の課題であるといえる。 算数では、図形の意味や性質、分数が単位分数(分子が1の分数)のいくつかという部分に課題がみられる。図形領域は、昨年度も課題となっていたため、学校の課題であるといえる。 理科では、電気を通す物や磁石に引き付けられる物といった金属の性質の理解や、顕微鏡の使い方の理解に課題がみられる。	
思考・判断・表現	教科を問わず、記述式の問題に課題がみられる。 国語では、記述する際、特に条件に合わせて書くことが課題である。また、無回答率も多いことから、書くことへの抵抗感が小さくなるような、書く力の土台作りが必要であるといえる。 算数では、グラフ等から判断した理由や問いに対する求め方を式や言葉、数値を用いて説明することに課題がみられる。 理科では、結果を基に結論を導いた理由などを表現することに課題がみられる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	毎単元ごとに書き込み式のドリルやドリルパーク等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組めたのは、約半数である。一部の単元で取り組めたを含めると約8割である。	変更なし
思考・判断・表現	B	「ほとんど」の時間で、授業で何を学習したのか、何が身に付いたのかを振り返る機会を設定できたのは、約6割である。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)